



〈山形駅前通り〉

昔と現在の商店街のようす

〈七日町済生館前〉

3 商いとおもてなしに生きる



山形市の商業の特色は何でしょう。また店の種類や規模、店構えは昔と比べてどのように変化しているのでしょうか。

多い商店関係者

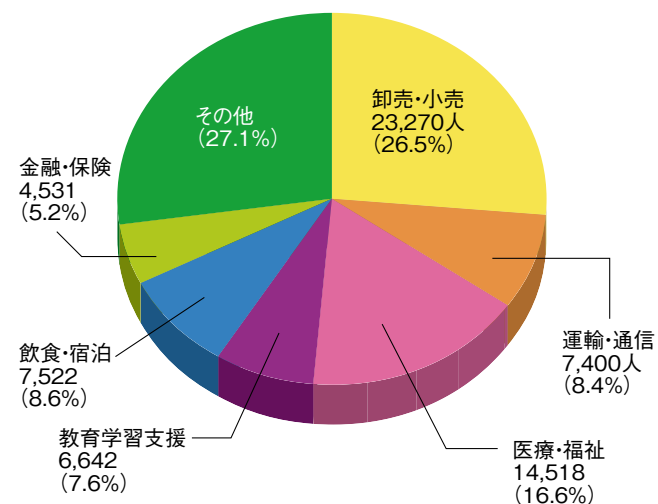
第三次産業で働いている人は、87,683人です（グラフ1）。業種別でみると、卸・小売業が23,270人で26.5%と最も多く、他に医療・福祉、飲食・宿泊、運輸・通信業があげられます。

流通団地には卸売り業者が集まり、山形北インターチェンジの近くにあります。小売業では、27の商店街振興組合や広い駐車場を備えたスーパーマーケット・大型ショッピングセンターは、それぞれの特色を生かしています。全体では商店の数、特に中心街での専門店が減り、売り上げは中心街より郊外の店舗が伸びています。

増える福祉関係者

医療・福祉関係者の構成比は16.6%と2番目に高くなっています。それは、市立病院済生館や県立中央病院、山形大学附属病院、そして民間の総合病院、多くの医院・歯科医院があることと、近年には高齢者の介護福祉施設が急激に増えていることが理由と考えられます。

第三次産業従事者の業種別割合（平成22：87,683人）



昔と今の店

50年前にあった店



おじいちゃん
おばあちゃんから
聞きとり
してみましょう



銭湯

老舗と蔵

旧羽州街道沿いの町（三日町・六日町・七日町・八日町・十日町など）には、多くの老舗と蔵が残っています。明治期の山形大火で中心部にあった多くの商店が焼失しましたが、堅実な山形商人魂で復興し、お客さんからの厚い信頼を得て、現在も多くのお店が存続しています。

消える店・新しい店

帽子や下駄などの専門店と一銭店、銭湯などは、50年前には多く見られましたが、現在は少なくなっています。また、日常生活に使う日用品や食料品などを扱う近所の「おばちゃんのお店」も少なくなりました。

一方、昭和37年に進出したスーパーマーケットや24時間営業のコンビニエンスストアは、市内各地に次々と出店し、買い物は自家用車でのまとめ買いやクレジットカードを利用するなど、市民の消費生活は大きく様変わりしました。

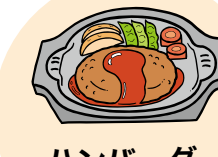
新しくできた店



スーパー
コンビニ



介護サービス



ハンバーグ・
ピザ店



宅配便



カラオケ店

ミニ知識 25

老舗が多い街

老舗とは、100年以上続く商店のことで、山形市は全国でも老舗の割合が高い街です。

- ・1578 とみひろ ・1604 菊地保寿堂
- ・1650頃 野村屋 ・1689 権之助塗長門屋
- ・1695 八文字屋 ・1700 大沼
- ・1704 ひいらぎや
- ・1736 寿虎屋酒造 山形丹六 井筒屋
- ・1748 西谷 ・1782 揚妻
- ・1789 男山酒造 秀鳳酒造
- ・1821 佐藤松兵衛商店
- ・1844 丸十大屋 ・1858 丸太中村
- ・1867 アオヤマ
- ・1869 長岡金網工場 五百川商店
- ・1873 のゝ村 四山楼 千歳建設
- ・1876 千歳館 ・1877 萬屋 三益堂 鹿間
- ・1880 岩淵茶舗
- ・1885 坂部印刷 丸八やたら漬
- ・1889 亀松閣 ・1895 囀月 など

山形商人の「三方よし」（売り手よし、買い手よし、世間よし）の考え方が、老舗を存続させているのでしょうか。

地図1 山形市中心街マップ(七日町・本町・十日町)1990(平成2)年3月



ミニ知識 26

中心街100円循環バス

ひと昔、各地から七日町・山形駅へ向かう定期バスは、多くの便が運行されていました。

各家庭で自家用車を持つようになり、また住民の減少と共に、定期バス運行は次第に減り、自家用車を利用しない人たちにとって、移動の「足」がなくなり不便な生活となりました。

また新しい大型店が郊外に進出するなか、山形商工会議所では、中心商店街を活性化するひとつの策として、「中心街100円循環バス」の運行を始めました(平成14)。運賃が安く10分おきの運行なので、高齢者のみならず若者や県外からの観光客にも活用されています。

また近年西部地区や高瀬地区などへ「コミュニティバス」が走り、バスは市民の大事な足となっています。



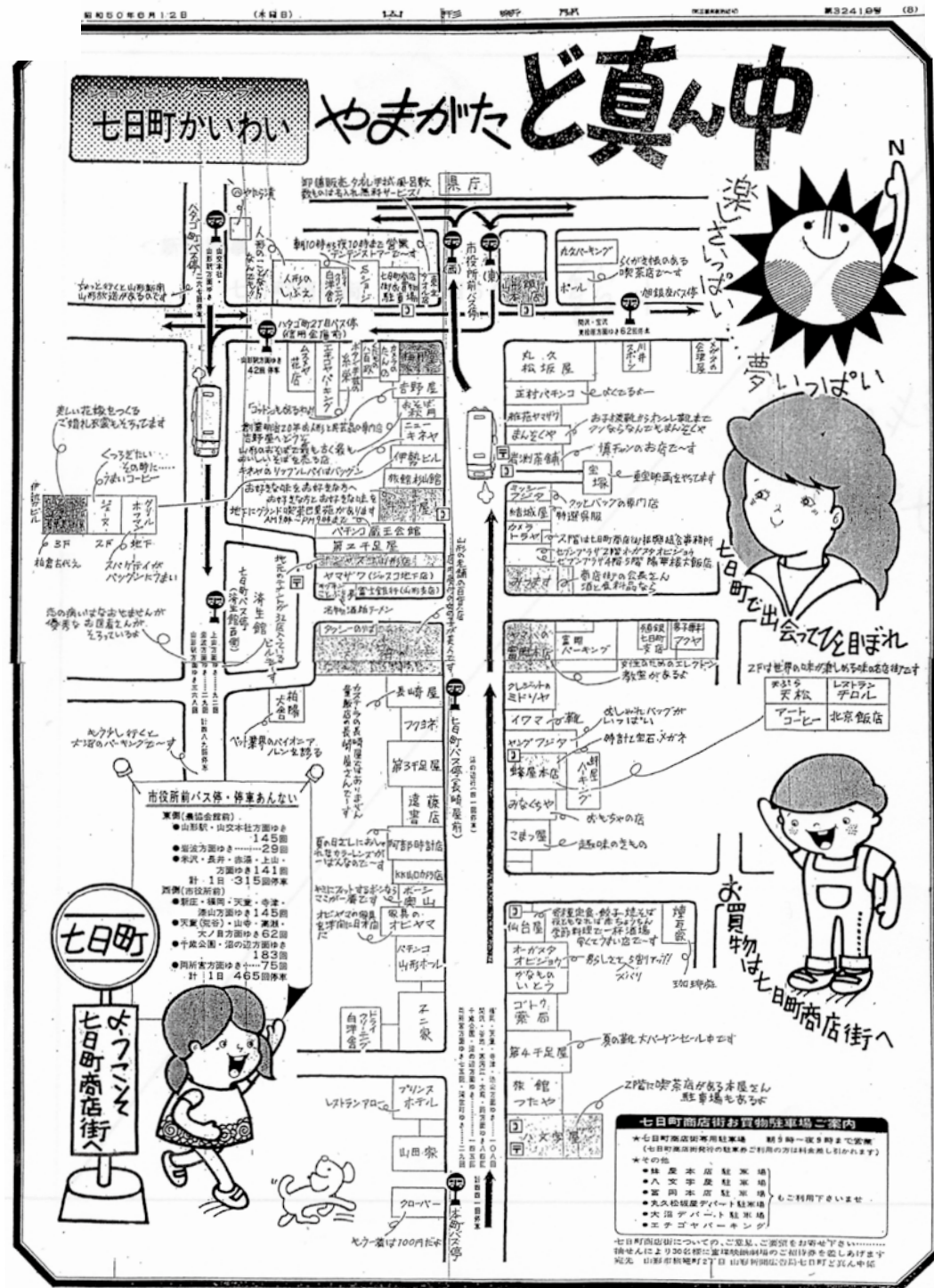
変化が大きい中心街

地図1(平成2)と次頁の新聞記事(昭和50)は七日町商店街、地図2は駅前通り(昭和60)の様子です。現在と比較して、どのような変化がみられますか。昔はデパートが2つと大型店や専門店が多く、定期バスも多方面への便数が多かったことがわかります。

山形の主な商店街は、七日町・本町・すずらん街・駅前などにあり、市民や周辺の市町からの多くお客さんで賑わっていました。列車やバスの交通が便利で、デパートや多くの専門店や飲食店、娯楽店などがあり、郊外のスーパー店や大型店がまだなかったからです。

近年、商店関係者は、中心商店街の活性化を図るために、「中心街100円循環バス」の運行や新しい商業施設、駐車場の確保、お客が集まるイベント開催などに力を注いでいます。

地図1(平成2)と次頁の新聞記事(昭和50)は七日町商店街、地図2は駅前通り(昭和60)の様子です。現在と比較して、どのような変化がみられますか。昔はデパートが2つと大型店や専門店が多く、定期バスも多方面への便数が多かったことがわかります。



地図2

駅前の商店がい

(昭和60年しらべ)

十日町十字路	
医院	ホテル
会社	ふくさな
歌謡橋荷	おかし
公園	にく
しょうぼう	カメラ
会社	そば
コーヒー店	ドーナツ
ふく	米
酒	すし
バス	ふく
のり場	しゃんや
	たばこ・コーヒー
駅前通り	
会社	おかし
めがね	くすり
銀行	銀行
ビル	スーパー
ピアノ	バスのり場
ふく	
スポーツ店	
くつ	
どけい・ほう石	
手芸・こや	
ふく	
スーパー	
くつ	ちゆう車場
くすり	レコード・食堂
会社	会社
会社	銀行
カメラ	はきもの
会社	銀行
くだもの	すし
ミシン	ほう石
ふく	ガソリンスタンド
おかし	
本	
大型店	
おかし	大型店
プラモデル	銀行
おかし	酒・おみやげ
手芸	銀行
レコード	
ホテル	会社
パチンコ	会社
ホテル	ホテル
ドーナツ	
山形駅(ステーションデパート)	